道路行政セミナー　2024 年 10 月号　NO.193　2024 年 10 月 28 日発行

☆特集記事

◆◇◆品川区における道路点検業務の高度化に向けた取り組み◆◇◆

（品川区防災まちづくり部道路課／MyCityReport コンソーシアム事務局）

国土交通省が平成 28 年に策定した舗装点検要領では、舗装の長寿命化やライフサイクルコストの削減など効率的な修繕を実施するため、舗装の点検に関する基本的な事項が示されました。品川区では、幅員の狭い生活道路が中心であり、地域特性に応じた道路管理が求められています。このため、目視点検を中心に行ってきた道路管理の手法をさらに効率的かつ効果的に実施できるよう、舗装点検要領を踏まえ検討を行ってきました。本稿では、当該事業の概要についてご紹介します。

☆道路占用Ｑ＆Ａ

◆◇◆ＩＣＴを活用したスマートごみ箱に添加する広告物について◆◇◆

（国土交通省　道路局　路政課　道路利用調整室）

ＩＣＴを活用したスマートごみ箱に添加する広告物について解説します。

☆地域における道路行政に関する取組み事例

★一般国道 56 号　松山外環状道路 空港線★・＊:.。

（余戸南 IC～東垣生 IC）　開通

（四国地方整備局　松山河川国道事務所）

松山外環状道路空港線は、令和６年２月２４日に余戸南ＩＣ～東垣生ＩＣ間が開通し、松山ＩＣと松山空港が自動車専用道路でほぼ直結しました。本稿では、開通前後のイベントの様子や、空港アクセス性向上や生活道路の安全性向上などの開通による効果についてご紹介します。

★主要地方道京都広河原美山線（南丹市美山町芦生）における

斜面崩落と道路破損の復旧工事について★°・＊:.

（京都府　建設交通部　道路管理課）

令和４年１月、南丹市美山町芦生地区で斜面崩落及び道路破損が発生しました。生活道路として利用している地元住民から早期の復旧が求められる中で実施した被災箇所を迂回する仮道の工事と道路防災ドクターからの意見を踏まえた法面の復旧工事について紹介します。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

★三条大橋の補修・修景事業の取組★°・＊:.

（京都市　建設局　土木管理部　橋りょう健全推進課）

三条大橋は、室町時代の造営とされており、歴史的背景や鴨川と調和した風景など文化的特性をもつ京都を代表する橋りょうです。これまでも架替えや改修が行われてきましたが、長年の風雨により５０年前に更新された木製高欄など老朽化が著しい状況となっていました。これに対して、歴史、風景の継承に向け、木製高欄等の更新を実施し、良好な景観の再生を図る必要がありましたが、多額の事業費を確保することが課題となっていました。

本稿では、地元住民・大学・企業など多くの方々の協力や全国の多くの方々の支援により、橋りょうの健全化、良好な景観の再生を図った三条大橋の補修・修景事業の取組等について紹介します。

┌┌┌┌──────────────────

┌┌　**☆編集後記**

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

十数年前に購入したレースのカーテンが、開閉するたびにビリビリと破けはじめ、見るも無残な状態がしばらく続いておりました。もう修復が困難な状態となってしまったため、意を決し、買い替えることにしました。きっと１０数年前も同じような経験をしたはずなのですが、素材、肌触り、遮熱効果、断熱効果、UV カット率、色、デザイン、幅や長さなどなど、とても多くのことに悩まされました。消費者にとって、選択肢が多くあることは嬉しいことですが、多すぎても悩ましく困ります。

カーテンの歴史は古代までさかのぼるそうです。洞窟を住居にしていた頃、その出入り口に獣皮などを吊り下げて、暑さや寒さをしのいだのが、カーテンの原型だと考えられています。そして、エジプト文明のころ、王や貴族たちがプライバシーを守るためにベッドの周り

を布で覆ったことが、カーテンの起源であるといわれています。部屋の仕切りや室内の装飾にも使われるようになったのはローマ時代のころで、当時の絵画に描かれています。ルネッサンス期（14 世紀～16 世紀ころ）になると、ガラス窓が造られるようになり、その装飾品としてカーテンが普及していくこととなりますが、当時はガラス窓も高価であったことから、富裕層の館にしかないものでした。わが国にカーテンが上陸したのは江戸時代初期でしたが、当時の日本では障子が主流であったことから、一般家庭への普及は、高度成長期に住宅産業が活気づいた昭和 30 年代以降であるといいます。今では、どの家庭にも大抵あるカーテンですが、まだ歴史が浅い代物であることが少し不思議に感じます。

　話は戻り、今月初めに、数か月悩んだカーテンが自宅に到着し、開閉の度にビリビリと破けていく恐怖から、ようやく解放されました。日当たりの良いガラス窓に面したカーテンは、紫外線にさらされる時間が多いことから劣化しやすいようで、先月号でご紹介した「光老化」と同様に、改めて紫外線のパワーを思い知りました。十数年後、また同じ悩みを抱えることと思いますが、今回は、できるだけ紫外線に強く、丈夫そうな生地を選びました。どの程度持ちこたえてくれるのか、楽しみに観察していきたいと思います。（U）